

世界を再造する

REMAKING
THE
WORLD

フランク・ブックマン

M R A の 発 足

一九三八年の初夏、ヨーロッパは神経戦におそわれていた。ヒットラーがオーストリアに進駐したので、民主主義諸国は憤慨して、国防軍の拡充を急いでいた。それと同時に、戦術的なイデオロギーの統戦に秀でて固執の精神が必要だということが、これらの国々に、ますます強く感じられるようになった。

一九三八年五月二十九日、イギリス労働運動の発祥地であるロンドンのイースト・ハム公会堂で彼のために招宴会が開催されたとき、ブツタマン博士はM R Aを発足させた。

次にかかげる彼の演説を聴こうとして集まった三千にあまる大衆は、堂に溢れる盛況であった。彼とともに、イースト・ロンドン地区の市長たち、

委員長、評議員など六十人以上の人たちが壇上に座った。その人たちの多くは多年労働運動を推進してきた勇士であった。新聞、ラジオを通して、フランク・アブタマンの雄辯する考え方は全世界に広まって行った。

世界の現状は不安と憂慮の原因にならざるを得ません。国と国、労働者と資本家、階級と階級との間など、いたるところに敵対心が盛り上つていきます。憎悪と恐怖による犠牲は日一日と増大しています。軌轍と挫折とは、われわれの家庭の土台を破壊しつつあります。

このような時代に、個人と国とを癒し、清足な回復を早く与えてくれるという希望をもたらす療法はあるでしょうか？

その療法は、われわれが母の膝の下で学んでいながら、すでに忘れてしまったか、それとも、なおざりにした日常平凡な真理、すなわち、正直、純潔、無私、愛にもどることの中にあるのではないのでしょうか？

根本的にいつて、現在の危機は道義上の危機です。この危機に臨んで、国ぐには道義的に再武装しなければなりません。道義的回復は本質的には経済的回復の先駆をな

すものであります。絶対正直、絶対無私が満潮のごとく盛り上つて国ぐにを洗い流した場合は想像してごらん下さい。そこにどういふ効果が現われるでしょうか？ 税金はどうなりますか？ 借財は？ 貯金は？ 無私の大波が国ぐにをひと洗いすれば、戦争は跡を絶つてでしょう。道義的回復は危機をかもし出さずに、生活の各方面にわたつて信頼と融合とをつくりだします。われわれはどうしたら急速に国ぐにに、この道義的回復を実現することができ得るでしょうか？ それには人間の性質を変えて、人と人との間に、党派と党派との間に橋をかけることのできる強い力が必要です。これはめいめいが相手の非をあげく代りに、自分自身の過ちを認めるときに始まります。

神のみが人間の性質を変える力を持っています。

人間が聴けば神は語り、人間が従えば神は働く、人間が愛れば国は愛る、という忘れられた偉大な真理の中に秘訣があります。その力が少数の人の中に積極的に働くと、国家の問題も解決されるでしょう。指導者たちが改変すれば、国民の考え方も変る。そうなれば世界は安泰になります。

われわれは世界を再造する者——これは普通の人びとの考えであり、希望では

ないでしようか？ 大概の人間は他の人が正直になり、他の国が自分の国に対して平和であつてほしいと思います。われわれはみな獲ることを望みますが、指導者たちが變つたら、われわれは与えることを欲するようになるでしょう。この新しい精神の中に、経済的回復を麻痺させている諸問題への解答を発見することができるとしよう。

みなが十分に思いやりをもち、十分に分け合うならば、みなが十分にうるおうのではないでしようか？ 世界には各人の必要を満たすだけのものは十分にあります。しかし、各人の食欲を満たすに足るだけのものはありません。

このようにしてM.R.A.の計画に参加できる失業者の数を考えてごらんください。国ぐにを安定にし、安泰と正気さをとりもどす仕事に一人残らずの人間が引きつけられ、糾合された状態を覚えてごらんください。

すべての人びと、男も女も子供も動員され、すべての家庭は城砦とならねばなりません。その目的は単に各人が生活の必需品を十分にもつばかりでなく、M.R.A.を実現し、それによつて自分の国の平和と世界の平和を擁護する正当の役割をもつことでもあります。

神は国民の一人びとりに靈感と自由とを与え、あらゆる政治的計画の基礎をきずく
 国家大の計画をもつています。

すべての就業者も失業者もM.R.A.に参加すること、これがすべての人を人間と家庭
 と職域とを再造するため働かせるという最も大きな奉仕事業であります。あるスエー
 デンの製鉄工が私にいました。「精神の革命こそが、人間と産業とのほんとの必要
 を渡すことができるほど徹底したものである」と。

また、ある労働組合指導者はいいました。「私は労働運動が勝利するのを見たが、
 勝利の中に一種の空虚を感じていた。オックスフォード・グループは私の生活に新し
 い内容を与えてくれた。私はオックスフォード・グループのもたらすものの中に世界
 の労働運動と産業の将来をひらく唯一の鍵を見出す」と。

人びとの中に新しい精神ができてこそ初めて産業の中にも新しい精神ができます。
 産業は新しい秩序の先駆者となり、利己主義の代りに国家的奉仕の精神をもち、神の
 導きを基礎として産業の計画を打ち立てることができます。労働者と経営者と資本家
 とが神の導きの下に協力するとき、産業は国民生活の中で本来の使命を果たすようにな

ります。

新しい人、新しい家庭、新しい産業、新しい国、新しい世界。

われわれは、まだ神の心の中にある偉大な創造的源泉から汲みとつていません。神には計画があります。結合された国民の道義的、精神的な力をもつてすれば、その計画を見つげることができます。

われわれは、世界を再造することのできる強力な道義的、精神的な勢力をつくり出すことができます。否つくり出さねばなりません。必ずつくり出すのです。

この演説は世界各國の新聞に報道されたが、ワシントン・ユナイテッド・ステイツ・ユエズ誌（同年九月六日付）の社説として掲載された。同誌の編集者デイヴィッド・コーレンスは、この演説を彼ウツデロー、ワイルソン大統領の最後の一文、革命から離れる道（一九二三年八月アトランティック・マンズリー誌所載）と関連させて次のように紹介した。

「ヨーロッパではまたも世界戦争が起りそうな危機がある今日……私がこの二つの文をならべて掲載したのは、一九二三年ウツデロー・ワイルソン大統領が掲げた重大なポイントが一九三八年の今日、世界五十ヶ国で四海同胞の理念を現実的によびさましたつある傑出したアメリカ人指導者フランク・ブツクマン博士によって、かくも球界にくり返されているからである。」